

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2450780032
法人名	医療法人 松徳会
事業所名	グループホーム カトレア
所在地 (電話番号)	松阪市山室町690番地の1 (電話) 0598-20-0182
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 12 月 5 日(水)

【情報提供票より】 (H19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	1,500 円~
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(11 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	66 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	花の丘病院 松本クリニック 富田歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、松阪市郊外の道路から少し入ったところで病院・老健施設に併設しており、建物は白く清潔感のある事業所である。周りには小高い山や野菜畑があり、静かで長閑な雰囲気がある。アセスメントに生活歴や趣味などが記録されており、利用者の支援に反映されている。職員もチーフマネージャーの教育が行き届き、利用者とは心温まる交流がされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義は理解されており、小さな課題でも全員で取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を実施する意義を理解し職員全員で評価に取り組んでおり、目標を作成し、改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催されており記録もある。メンバーは家族や市職員、民生委員、自治会長などで構成されている。会議では事業計画などを報告して意見交換がされている。毎回催物を行い、楽しみのひとつになっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱や苦情相談窓口を設置されている。出来るだけ満足をしていただけるように事業所独自のアンケートを実施したり、毎月の来訪時(利用料の支払)に状況報告を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人内のデイサービスに出向き、利用している地元の人と交流を図っているが、事業所周辺には人家がなく、日常的な地域との付き合いはない。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し検討を行い、法人理念の「地域に根ざした保健・医療・福祉サービスの提供、改善に努める」を従来の事業所独自理念の「ゆったりと自由な暮らし、穏やかでやすらぎのある暮らし、自分らしさや誇りを保った暮らし」に加えることにした。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の引継ぎで夜勤者が主になって理念を確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人内のデイサービス に出向き、利用している地域の人と交流を行っているが、事業所周辺には人家はなく日常的な地域とのつき合いはない。	○	対象とする地域を狭く考えずに地域の範囲を広げ、例えば松阪市全体が地域だと考えて交流を図っていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を実施する意義を理解し、職員全員で評価に取り組んでおり目標を作成し、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペース で開催し、事業計画等を報告して、意見交換を行っている。又、開催日には必ず事業所の催し物を行っている。メンバーは、利用者、家族、医療・保健・福祉関係者、自治会他関係者である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	松阪市高齢者福祉サービス 連絡協議会に参加した時や介護申請の代行時等にお互いの要望・考え方を話し合っている。	○	市と連携した介護教室などの実現を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回お便りを発行している。(写真は個人のプライバシーに気をつかい、個別に変えている。)又、毎月の来訪時(利用料の支払)にその都度状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口を設置している。出来るだけ満足していただけるように独自のアンケートを実施し、意見・苦情の吸い上げに努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しく採用する場合には出来るだけ利用者に馴染める人を選んでいるし、法人内の異動はしない方針である。職員の離職は家族にはお便りで知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間の教育計画を立て、個々人のアクションプランに基づいて研修を行っている。外部研修は出来るだけ受講し、内容については復命書など作成し、伝達講習に利用している。又、資格取得の支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市のグループホーム 連絡協議会に参加して交流を図っており、相互訪問や勉強会を通じて、サービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族の見学だけでなく、空き部屋がある時は1週間程度のとまりを体験してもらっている。	○	「できればデイサービス等なじみの関係になってからショートステイ 又は入居の形をとっていきたい」という事業所の考えに賛成である。是非実現に努力してほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者1人ひとりの生活歴や趣味などを把握しており、利用者の意志を尊重しながら、教わる態度で支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人ひとりの思いや希望を把握し、職員で話し合い本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送り時やミニカンファレンスで意見を出し合い、3ヶ月に1回はカンファレンスのまとめを行い、本人家族と話し合い確認をとって作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者1人ひとりに担当職員を決めており、毎日のミニカンファレンスで意見を出し合ったり、定期的には3ヶ月に1回見直しを行っている。また状況に応じて随時見直しもやっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎を行っている。	○	職員や事業所の機能を活かして介護教室の開催等地域のニーズに応える努力をお願いしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が同一法人の病院の先生を主治医としており、月2回往診してもらっている。特殊な病気の場合は別病院(かかりつけ医)の診察を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対応に係る指針が作成されており、医師より、本人、家族に説明した上で家族の希望を優先している。既に1名の実績もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	情報漏えいについては職員には徹底教育を行っているし、「たより」掲載の写真にも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、利用者1人ひとりに声掛けしながら希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物を一緒にし、菜園で収穫した野菜も利用するなど、旬の食材を使用して調理している。メニューを作成し、栄養士と相談している。又、利用者が職員と一緒に配膳、片付けをしている。食事中も楽しく会話をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでも入浴が出来る。入浴を嫌がる人に声掛けをし、週1回は入浴してもらうよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴表もあり、食事の準備や片付け、掃除、ビーズ、編み物、カラオケなどその人に合ったものを支援している。おやつ時にはコーシー・紅茶など好みの飲み物を提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝事業所の周辺を散歩している。車椅子の人もいるが、職員と一緒に買い物もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアなど日中は施錠されていない。鈴をつける等工夫をするなど職員全員でカギを掛けない努力をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の老健施設と協力して年2回避難訓練を実施している。台風時などは早めに老健施設に避難している。夜間訓練も検討したが、利用者が驚くのでやめている。	○	災害はいつ起こるかわからず、特に夜間は職員数も少なく、災害発生時の対応が難しいので是非夜間訓練を計画していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者1人ひとりの健康状態を把握し、月に1回は栄養士の意見を聞いている。利用者の好みも聞いている。水分摂取は湯飲みに目盛りをして確認している。又、お茶などは自由に飲めるようにテーブルに、夜間は各部屋に置いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル(食卓・各部屋)に花が生けられており、畳の居間は落ち着いた雰囲気がある。廊下の壁に自分達の作った作品を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンス、カーテン(防火)以外は本人・家族の好みの家具など使い慣れたものが置かれている。		